

## もの言う牧師のエッセー 第173話

## 「山口組総本部の井戸」

阪神大震災からついに20年が経った。私が育った泉大津市でも、大阪湾を隔てて神戸から直線距離で20kmほどしかないために、出身教会の壁にひびが入るなどした。混乱の垣根の中で、政府の初動の遅さや自衛隊や海外医療チームなどを巡る法制の不備など対応のまずさばかりが目についたが、対照的に神戸市に総本部のある山口組の働きには誰もが目を見張った。

地震発生後ただちに、彼らは総本部駐車場の一角にある井戸の水を近所に配ることから救助活動を開始。2時間後には全国傘下団体から続々と救援物資が届く中、いち早く被災地上空をヘリで視察、物資搬入に適した道路の確認までしている。噂はたちまち広がり総本部前には長い行列が出来る一方、救助活動は市内の避難所や病院など被災地全域に広がっていく。さらに、栄町公園の炊き出しでは、傘下のてき屋が大規模な屋台村を設営。こちらでも数千人の行列が出来、やがて同様の炊き出しは市内10ヵ所近くに拡大していった。また、地元自治会の要請で店舗荒し等の犯罪防止の為に巡回警備を行い、総本部前に掲げられていた「暴力団追放」の大きな看板が自治会側によって撤去されもした。聖書には井戸の記述が多く、この“井戸から始まった救助活動”は、有名な「イエスと井戸端の女の会話」の中に出てくるキリストの言葉を想起させる。

「わたしが与える水は、その人のうちで泉となり、永遠の命への水が湧き出ます。」

ヨハネの福音書4章14節、

とある。実はここで登場する女性も自分勝手な卑しい人物であった。だがイエスと出会い、井戸からである水のように有用な人物へと変えられるのである。いま暴力団に対する風当たりは非常に強い。テロもひどい。犯罪も凶悪化する一方である。だが、どんな人間でも元を正せば神の被造物であり、キリストを信じ罪赦された時、新しい人間に生まれ変わり良い業が出来る。もし彼らの行動力が善を行うようにリセットされたなら、社会に素晴らしいインパクトをもたらすに違いない。なぜならキリストを信じた時、その人みずからが潤うのみならず、世に潤いをもたらす者へと変えられるのだから。

2015-3-1

